

東下り（からころも着つつ慣れにし妻しあれば）の下り先にて

昔、男、武蔵の国までまどひありきけり。² さて、その国にある女を

よばひけり。父はこと人にあはせむといひけるを、母なむあてなる人に

心つけたりける。父はなお人にて、母なむ藤原なりける。さてなむあて

なる人にと思ひける。このむこがね³によみてをこせたりける。住むとこ

ろなむ、入間の郡、三芳野の里なりける。

みよし野のたのむの雁もひたぶるに君が方にぞよると鳴くなる⁴

むこがね返し、

わが方によると鳴くなるみよし野のたのむの雁をいつか忘れむ⁵

となむ。

人の国にても、猶かゝる事なむ、やまざりける。

¹ 傍線は読解に役立つ重要語。数字は単なる注釈ではなく読解で意識するポイント。

タイトルも段番号も元々は書かれてないので、教科書によって違いがある。

² 前段の東下り（八つ橋）の話にも「住むべき国もとめてゝまどひ行きけり」とあった。

³ 婿の予定者「ムコガネ」なので、最初の歌は誰の歌か。またそれさえわかれば歌の解釈ができる。

⁴ 「雁が寄る」という骨子を掴むと、雁が誰のことを指しているのかわかる。伝聞推定のなりの意味も把握できる。頼むと田の面が掛け言葉。

⁵ 疑問＋推量。反語でとるのが意味が通る。